

早稲田ワークショップ 2010

「日本とウェールズにおける炭鉱の記憶」



旧産炭地研究会(JAFCOF)では、2009年から Swansea 大学(Wales)と共同して石炭産業に関する国際比較研究を実施しています。2009年夏には空知・Wales でシンポジウムを開催しました。ひきつづき 2010年夏に早稲田大学でシンポジウムとワークショップを開催します。関心のある方の参加をお待ちしています。

シンポジウム

「旧産炭地の現在：常磐・空知・ウェールズの比較から」

日時：2010年7月10日(土曜) 13:30-16:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス 34号館 451教室

※第62回早稲田社会学会大会シンポジウムとなります。

ワークショップ

「日本とウェールズにおける社会教育と地域再生

：旧産炭地の労働組合と女性たち」

日時：2010年7月11日(日曜) 10:00-12:00

場所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館第5会議室

※両日ともに通訳付き

※プログラム等は裏面をご参照ください。

日本とウェールズにおける炭鉱の記憶

プログラム

●シンポジウム

旧産炭地の現在 —常磐・空知・ウェールズの比較から—

7月10日(土) 13:30-16:30 34号館 451教室
(第62回早稲田社会学会大会シンポジウムとなります)



1. 嶋崎尚子(早稲田大学)

「石炭産業の衰退と地域、労働者:常磐炭砒を事例にしたライフコース研究とその社会学的意義」

2. 吉岡宏高(NPO 炭鉱の記憶推進事業団・札幌国際大学)

「炭鉱遺産を手がかりにした空知産炭地域の再生—経緯・政策・実践—」

3. Chris Williams(Swansea University)

“The Rise and Fall of Coal in Comparative Perspective: Thoughts on South Wales and Japan”

司会: 中澤秀雄(中央大学)

討論者: 中村尚史(東京大学) 周藤真也(早稲田大学)

※ 参加費 1,000 円

●ワークショップ:

日本とウェールズにおける社会教育と地域再生:旧産炭地の労働組合と女性たち

“Knowledge is Power: Social Education and Regeneration in Japan and South Wales”

7月11日(日) 10:00-12:00 第二研究棟(39号館)5階第5会議室

1. Jane Elliott (Swansea University)

“Adult and community education in Wales in a new political context”

2. 富永貴公(日本学術振興会)

「社会教育研究は三池主婦たちの活動の意義をどのように引き受けるのか」

パネリスト:

Elisabeth Bennett (Swansea University)、Siân Williams (Swansea University)

平川景子(明治大学)、西城戸誠(法政大学)

※ ワークショップへの参加をご希望の方は、資料準備の都合上下記までご一報ください。

lifecourse-project@list.waseda.jp

●両日とも通訳付き

●詳細は <http://www.tankou.org/> でご覧になれます。